🌿 嬉野文化再生プラン（仮題）

第3段階：具体的実践案・プロジェクト集
― 市民が主役になる「文化の舞台」へ ―

---

1. 市民全体向けプロジェクト

🌸【Ureshino Green Market】
― 家族で楽しむ、学びと循環のフリーマーケット ―

▶ 概要
月に1〜2回、みゆき公園や市内広場で開催する、巨大市民マーケット。
家庭の不要品や古着を持ち寄り、販売や交換を楽しみながら、
地域資金（市民文化基金）を生み出す新しい形の「地域ピクニック」。
▶ 内容とねらい
- フリマ＋音楽ライブ＋子どもワークショップ＋ピクニックエリア
- 市民・移住者・観光客が自然に交わる「出会いの場」
- 家庭内の循環（リユース・リサイクル）を地域文化として定着
- 売上の一部を「文化基金」に還元 → 小規模文化活動へ再投資

▶ 実施体制
市民ボランティア＋NPO＋行政サポート
学生チームによるSNS運営、退職者による会計・管理

2. 塩田津オートマタ＆影絵プロジェクト
― 「動く町並み」から「語る町並み」へ ―

▶ 概要
白壁の町・塩田津を舞台に、オートマタ（自動人形）と影絵を融合したアートイベントを展開。
夜の通りに光と影が動き、古い家屋が物語を語り出す。
“かつての商人町”を、再び「夢の通り」に変える。

▶ 内容と構成
- 壁面や窓に映る影絵アニメーション
- 地元中学生・アーティスト・木工職人による共同制作
- 物語テーマ例：「シュガーロード」「川が運んだ宝」「時の旅人」
- 音楽・語り・映像を組み合わせた“夜の祝祭”

▶ 期待効果
- 空き家・空間の再利用による地域景観の再生
- 子どもと職人が協働することで「技術伝承」と「創造教育」の融合
- メディア注目度が高く、地域の誇りを取り戻すシンボル事業

3. 吉田焼「物語のうつわ」国際展
— 吉田から世界へ、器に語らせる —

▶ 概要
吉田焼の若手職人と海外デザイナーが共同制作した作品を、
嬉野・福岡・東京・海外（イタリア・北欧など）で巡回展示する文化発信プロジェクト。

▶ 展示構成
- 「祈り」「暮らし」「風」「光」などテーマごとの展示室構成
- 陶器と映像・音楽・詩を融合した空間デザイン
- 映像作品「The Voice of Clay（陶が語る）」を同時上映

▶ 教育連携
- 市内小中学校で陶芸体験＋英語ワークショップ
- 英語表現「Story of My Cup」をテーマに作文・発表
- 海外とのオンライン交流（イタリア陶芸学校との連携）

▶ 経済効果
- 吉田焼ブランドの再評価・新商品化・海外販路拡大
- “観光と文化産業”を結ぶ具体的モデルとなる

4. 温泉×文化フェスティバル
— 湯と光と音の祝祭 —

▶ 概要
嬉野温泉街を舞台に、光・音・アート・健康文化を融合した市民フェスティバル。
温泉街全体を“文化空間”に変える3日間。

▶ 企画例
- 湯けむりと灯籠のアート回廊
- 温泉×瞑想体験「湯の祈りサークル」
- 食と音のマルシェ（ヴィーガン・発酵食・地元野菜）
- 若手音楽家や地元団体によるストリートコンサート

▶ 特徴
- 地元旅館や商店との協働による街全体参加型イベント
- 夜の経済活性化、宿泊延泊率の上昇
- 市民・観光客が共に文化を感じる“心の再生祭”

5. 嬉野未来アカデミー
— 子どもと大人が共に学ぶ「生涯の学校」 —

▶ 概要
市内各所に点在する文化拠点（公民館・カフェ・旧校舎）を活かし、
世代を超えて学びあう「地域学びのネットワーク」を形成。

▶ 内容
- 子ども：地域の職人・農家・アーティストから学ぶ“実践の授業”
- 退職者：講師として再活躍（英語、料理、木工、歴史など）
- 移住者：地域文化の橋渡し役、情報発信・企画担当

▶ 目標
「誰もが先生」「まち全体が学校」という新しい教育文化の創造。

6. 市民ファンド・文化基金構想
— 市民が文化の“共演者”になる仕組み —

▶ 概要
フリーマーケットやイベント収益を「市民文化基金」として積立。
年間の小規模文化事業に助成し、市民が自ら文化を支える仕組みをつくる。

▶ 活用例
- 空き家改修・展示設備・教材費などの補助
- 若手作家の個展支援
- 地域の音楽会やマルシェの費用援助

▶ 将来展望
基金が軸となり、**「市民が出資者であり参加者」**という
新しい民主的文化運営モデルを嬉野から発信。

🌈 終章：
「文化が暮らしを照らすとき、まちは再び息づく」
この再生プランの目的は、
“何かを建てる”ことではなく、
“誰かの心に灯をともす”ことです。

フリーマーケットでの笑顔、
オートマタの光に見とれる子ども、
湯の街に響く音楽、
器に刻まれた物語。
それら一つひとつが、
嬉野というまちの文化の再生を形づくります。

「文化は贅沢ではない。
それは、生きる力の根っこである。」

以上。
デローラ